

学力Bテストの数学は、ここ数年全25題程度で構成されており、今年度に関しても大きな変更はありませんでした。学力Cテストの問題数も同程度と予想します。

大問1・2は例年通りの小問集合でした。難易度は低めであり、基礎的な計算力を問うものばかりでした。大問1問5の円錐の表面積の問題は、側面積の公式「母線×底面の円の半径× π 」を使うと楽に計算することができます。今後に向け、中心角の公式と合わせて復習しておきましょう。

大問3は箱ひげ図からの出題でした。問2のような記号選択問題では、問題文に「すべて選び」とあるため、答えが複数あることを前提に、消去法で解答するとよいでしょう。

大問4は例年ならば1次方程式や連立方程式から出題されますが、今年は新傾向の確率問題でした。問2の問題は間違えやすく、今回の学力Bテストで最も正答率の低い問題だったと思われます。よく考えれば●の人物が事前に「6番のカード」をひいたであろうことは明らかなのですが、「問題文にはっきりとした記載が無い」ことと、「問1の問題がミスリードを誘う原因になっている」ことで勘違いをしてしまった生徒もいるのではないのでしょうか。良問とはいえませんが、ある意味「思考力」を試される問題であり、今後、学力Cテストや公立高校入試でもこのような傾向の問題が増えてくる可能性があります。

大問5はニスコのオリジナルテキストに類題が載っており、塾生ならば難なく解けたかと思います。特記事項はありません。

大問6は関数と面積の問題でしたが、必要な座標はあらかじめ示されており、正答率は高かったと思われます。問2のような問題は、図形の周りを長方形で囲み、全体の面積から不要な部分をひいて求めるようにしましょう。

大問7の証明問題は、2つの三角形の重なる共通部分 $\angle ACB$ に注目できれば難なく証明できたかと思います。

総評として、学力Aテストと比べ、全体的に問題が易化しており、平均点は高くなると予想します。単純に前回よりも点数が上がったからといって喜びすぎないよう、気を引き締めていきましょう。

また、今回出題されなかった、球の問題、規則性の問題、立体の体積の問題、2直線の交点を連立方程式で求める問題、面積2等分の問題、動点の問題等は次の学力Cテストで出題される可能性が高いです。重点的に復習しておきましょう。

数学のテストは他教科とは異なり「ミスとの闘い」です。人間ですからミスがあるのは当然ですが、ミスを減らすための努力はするべきです。学力Cテストに向けて、具体的な方法を3つ紹介します。

1つ目は事前の「反復練習」。人間、同じようなことを日々繰り返すと、やがてそれは習慣となり、自然な行動となり、結果としてミスが減ります。事前課題「ウイニングフィニッシュ」を継続的にやりましょう。

2つ目は試験中の「見直し」。当たり前のことだともうかもしれませんが、当たり前のことをできていない人は意外と多いものです。1度見直しをして終わりではありません。賢い子ほど、試験終了まで何度も見直しを繰り返します。可能ならば、見直しの際は1度目とは違う方法で解いてみてください。異なる方法で解き、同じ答えに辿り着くならば、その答えは合っている可能性が高いといえるでしょう。

最後に3つ目は、「前日にしっかり休む」ことです。日々、テスト勉強を頑張ってきた脳は想像以上に疲れています。しっかり寝て、蓄積した疲労を回復させましょう。あの有名な大谷翔平選手でさえ、「パフォーマンスを発揮するために一番大事なのは睡眠だ。」とインタビューで語っています。間違っても「一夜漬け」などしてはいけません。「一夜漬け」で効果が出たという人は、それまでろくに勉強をせず、脳が元気だっただけの話です。継続的に毎日勉強するほうが効果的なのはいうまでもありません。

以上3つを心掛けて、学力Cテストで自己ベストを更新しましょう！志望校合格に向けて頑張れ受験生！！